軍歌の勇壮なメロディー 若者にも浸透

日清・日露戦争や先の大戦など、日本の存亡をかけた戦いで士気高揚のために作られた軍歌の文化的な価値を見直そうとする動きが、戦後生まれの人々に浸透しつつある。軍歌は自衛隊や警察では現在でも行進曲などとして採用されており、勇壮なメロディーと歌詞は車の運転中などに聴くと気分が盛り上がる。どうせならマイクを手に思い切り歌ってみたい。そんなひそかな夢をかなえてくれる「軍歌酒場」が神戸市内にあると知り、突撃取材を敢行した。

（石川真大）

「酒場」店長、秘められた魅力発信

■日章旗に神棚…

軍歌酒場「散兵線」はJR三ノ宮駅（神戸市中央区）からほど近い雑居ビルの3階にあった。

入り口の扉の横には大きな日章旗が掲げられている。約40平方㍍の店内には、カウンター6席とソファのボックス席が2つ。入り口正面の壁には神棚が置かれていた。

「軍歌を好きな人々が好きなことを語り合い、好きに歌うことができる店にしたい」。軍服姿の店長、井上廣さん（58）は快く取材に応じてくれた。

グラスを拭き営業の準備をする軍歌酒場「散兵線」の井上廣店長＝神戸市中央区

■160曲歌唱可能

散兵線は平成23年12月にオープン。それまで井上さんはトラック運転手として関西を中心に走り回っていたが、母親の介護の都合で仕事を辞めて地元神戸に戻った。新たな職を探している最中でどうしても忘れられなかったのが、トラック内で聴き続けた軍歌だった。

「好きな軍歌を仕事にしたい」。そう心に決めて店を開いたが、経営面では苦難が続いた。

「よく来てくれるのは、警察官だったり自衛隊員だったり公務員が多い。ただ、全然もうからない。分かっていながらも、この仕事は楽しいから続けてしまう」

一人も客が来ない日もある。それでも店を続けていきたい一心で、毎年夏になると泊まり込みで山小屋のアルバイトに出かけているという。

店を訪れていた教員の男性（30）は「普段使うことがない言葉の歌詞と力強いメロディーが気持ちを強くしてくれる。落ち込んだときに聞くと元気になれる」と軍歌の魅力を説明する。

店で歌うことができる軍歌は約160曲。曲数の多さは常連客の一間で好評だ。記者も、かねてからCDを聴きながら練習を繰り返した「出征兵士を送る歌」を披露することになった。召集を受けて戦地へ赴く兵士を鼓舞した曲だ。勇壮な旋律に古文調の歌詞。恥ずかしさを感じつつ思いを込めて歌うと、井上さんや常連客から拍手をいただくことができた。

■アニメの影響も

井上さんは「自分が子供のころはもっと軍歌が身近だった。『軍国主義の象徴』などの理由で嫌う人が存在するのはしかたないが、受け入れやすいメロディーの完成度は非常に高い」と語る。

店には時々、軍事について特に関心があるわけではない若者が訪れる。店に置かれた軍服や帽子を着用し、小銃のレプリカを手にすると、多くの若者は気分が高揚した様子で記念撮影するという。

また、最近では動画投稿サイト「ユーチューブ」を利用した普及や、軍事を取り入れたアニメ作品の影響などで、気軽に軍歌を聴く若い世代も着実に増えているという。

井上さんは「軍事に精通した人が過去の戦争や軍歌について語り合うのも店の楽しみ方だが、軍歌にまったく興味がなかった人でも意外と楽しめる部分はある。軍歌にはそれだけ大きな包容力が秘められている」と強調した。

◇

軍歌酒場「散兵線」。神戸市中央区中山手通1の3の10、ローズプラザ3階。日曜、祝日定休。午後6時半～11時。3500円で3時間飲み放題。問い合わせは同店（☎080・4017・3400）。

自衛隊や警察 現在も継承

日常生活で軍歌を聴く機会は多くないが、自衛隊や警察では現在も脈々と受け継がれている。

西南戦争で敵戦を繰り広げた官軍の戦いぶりを表現した「抜刀隊」という曲がある。この戦いには陸軍の兵士のほか、東京警視本署（現警視庁）の警察官も参戦。陸上自衛隊の観閲式などで自衛官が行進する際に演奏されるほか、警視庁でも行進曲に制定されており、機動隊観閲式などで聴くことができる。

「軍艦マーチ」で知られる「軍艦行進曲」は戦後にパチンコ店のBGMでおなじみとなったが、海上自衛隊の行進曲として艦船の進水式や幹部候補生学校の卒業式などで現在も受け継がれている。

また、この曲の魅力は海を越え、ミャンマー軍では歌詞を変えて流用されており、海外の民間会社が船舶の進水式で流すこともあるという。